

平成26年第410回信濃町議会定例会6月会議 会議録(3日目)

(平成26年6月13日 午後2時15分 再開)

●議長(小林幸雄) それでは再開いたします。

通告の10 石川広之議員。

1. 農業政策について
2. 観光について

議席番号1番、石川広之議員。

◆1番(石川広之) 議席番号1番、石川広之。「町農業について」質問いたします。

当町農業の発展には、大変厳しい時代になってきています。信濃町の農業は全国平均より多い耕作面積を持ち、先人の皆さんは水田を主とした農業経営をしてきました。ここ近年では、少子高齢化また若者の離農が進み、農業に従事する人々が少なくなってきました。

これは農産物の価格が上がらず、また、農機具の高額化、燃料の高騰など、それぞれいろいろとあります。また、国の農政の変化に対応することが、農業者に厳しいものになっているからではないですか。国政では、TPP交渉が各国の思惑の対立する中、参加国の同意がなかなか見えてこない現実です。この遅れも町の対応も苦慮するところではないかと思われまます。また、規制改革会議が農協関係の改革を示してきたり、また、市町村、自治体の農業委員会のあり方もそれぞれ示してきています。また、それ以上に日本創成会議からは、全国市町村で2040年までに、若い女性20代、30代の人口が半減すると示され、地域崩壊の可能性があるとされています。当町も長野県下、自治体の中で70から79パーセントの減少と示され、県下ワーストファイブに当町も入り、ショックは大きなものです。これは、町を維持するための大きな課題にすでになっているのではないですか。

信濃町の農業を支える農業経営者、また、農業を手伝う作業者と、農業人口の減少がますます進んでいます。このようなことから、農業を維持するためにも、今、町では、中核農業者の育成がぜひ必要だと思えます。現状の生産法人も高齢化、また、後継者問題、地域からの集中的な農地の集約、このようなことから、地域での営農者の立ち上げなども考える中で、規模の大きい30ヘクタール、あるいは50ヘクタールと、大きい面積に対応できるような農業者の立ち上げ、また、立ち上げの時期として、ぜひ考えていただきたいと思えます。すでに、この時期遅かりしとは思われますけども、町ではIターン、Jターン、Uターンと、それぞれ町外からの人々に期待もありますが、これは、農村地帯であるそれぞれの集落、地域での地に根ざした人材の育成を町主導での機会を作ってみてはどうですか。国政の動きを見る中、当町の広大な面積を生かした農業を進める中には、それぞれ農産物の加工を手掛け、販売までの自立できる農業者の育成を進めたらどうですか。信濃町農業の体制づくりの中で、町は中核農業者の育成をどのように考えていますか。町長お願いします。

- 町長(松木重博) 石川議員の大変農業に卓越した質問でございますけれども。私は思いますに、まず、町の農業がこれだけ遊休荒廃地が増え、後継者がいないというのは、やはり、農業が儲からないということに尽きるのではないかと考えております。逆に目を向けてみますと、例えば、長野市の赤沼地区のリンゴ、これは後継者がいないどころか、喜んで子供や孫が「やらせてほしい、じいちゃん、ばあちゃん。」と言っているという話を聞きました。町には米があり、また、野菜があり、いろいろなものがございます。しかし、その価格が低迷している、あるいは安売りをしている、これが結局は、子供や孫にとって、魅力のない農業につながってしまっているのではないかと、常々、機会あるごとに申し上げてきたところでございます。しかし、戦時中の価格統制ではございませんけれども、町が「モロコシ1本いくら、ルバーブ1本いくら、タケノコ500円なら何本入り」というような、こういったことは出来ません。やはり、農業をやる方のモラルと申しますか、農業者同士の打合せの価格に基づいて、自分たちが、やがて後継者に困らないような価格設定をしていくことも十分必要なことだろうというふうに考えております。そういった意味での話し合いの機会とか、あるいは接点を作るとか、そういう面では、町は大いに協力していきたいと考えております。
- 残余の件につきましては、担当課長よりお答え申し上げます。

●議長(小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

- 産業観光課長(伊藤均) それでは「中核農業者の育成」というご質問でございますので、まず、長野県の農業施策等の関係でございます。それに準じて、町も、ということ、お答えしたいと思います。

長野県で、長野地域が目指す農業の将来ビジョンというのがございまして、その目標といたしまして、青年就農者や企業的農業経営体等が地域の担い手として活躍すると示しています。そのための様々な政策の一つとして「人・農地プラン」の作成による課題の明確化と支援があります。5年、10年後の地域の現状を見据えた中で、中心となる経営体の確保、農地の集積やそれに関わる資金活用、六次産業化への取組等を、地域の話し合いの中で作成するものということで、町長が申したとおり、話し合いにより進めていくというものです。

さて、町として、どのように取り組んでいるかという、地域の営農組織化を図るため「人・農地プラン」を作成し、「農地・水・環境保全対策」、現実に、昨日ですか、補正予算等でお認めいただきました「多目的機能支払制度」や「中山間地直接支払制度」の活用を通し、地域での共同活動に対し、集落営農組織や法人化につながるよう、支援、育成に取り組んできましたが、集落の合意形成や基盤づくりには困難が多く、長い期間を要しております。近年では、平成23年に古海地区で1法人が設立されていますが、以降は進んでいないのが現状であり、町としても何か手立てがないかということで、苦慮しておる状況でございます。以上です。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番(石川広之) 町では、大変それぞれの対応に苦慮しているということですが、町は農業者あるいは生産者、それぞれの皆さんから話、ヒヤリングあるいは会合を持って、今どういう現状、実状であるのか、また、そういうことを話し合ったことはありますか。今の話だと、机上での話かなというふうに思われるんですけど、話し合いはありましたか。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 私がこの4月に来た中では、各地区から、この制度を使いたいとか、どうのように活用したらいいかという話は、総代さん、今日もそんなんですけど、窓口に見えまして、どうにか地区の皆さんと共同して組織を立ち上げたいという相談があったり、また、説明会に来ていただきたいというのが、この4月以降には多くあります。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番（石川広之） 農業の問題とすれば、継続的な計画が必要であって、総代さん、あるいは皆さんの任期のある中では、決して解決のできない問題だと思います。それには、農業者、しっかりと地権者であったり、農業をしている人間から、直接、話を聞く機会を作るべきではないかと思います。それには、やっぱり、町としても、町長を挙げ、先ほども振興公社、あるいは農業開発公社、それぞれ話がありましたけども、この話は、向こう当分駄目だということですから、今すぐ必要とする中核農家の立ち上げ、それにおいて地域の農業の荒廃地をなくす、あるいはそれぞれの地域の受託、委託の空白地帯をなくすための努力、それで自立ができる農業者を育てるということの必要性があると思います。町のお考えをお伺いします。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 中核農業者の立ち上げのご質問だと思いますけれども、町では平成11年度から、農業行政や農業技術支援を行える一時的な組織として、信濃町営農支援センターが設置され、町、農業委員会、JA、長野農業改良普及センターの構成により、集落営農組織や法人の立ち上げに向けた相談及び指導、助言等の支援を行っています。現在、法人化されている生産組織は8組織あり、地域の担い手として位置付けられておりますが、今以上の農地の集積は難しいとも聞いております。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番(石川広之) 今の法人組織、8組織あるという話、私もそのひとつの一員ですけれども、この話ではなく、やっぱり、直接、法人から聞いたというのではなくて、聞きましたというふうな、ぜひ、懇談会あるいは、何が問題であるのか、農業者が立ち上がらない理由はどこにあるのか、町長の言う価格低迷、あるいはそれに準ずるものは大きいとは思いますが。ただただ、このままでいくと地域の崩壊にもつながりかねない農業の現状だと思います。それにはぜひ、町は中核農業者を立ち上げるべく、今の農業法人との問題点の話し合いくらいはしたらどうかと思います、ぜひ。実現の可能性ありますか。

●議長(小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長(伊藤 均) ご意見いただいた中で、信濃町営農支援センター等の会議で、そのような、実際に作り上げて、その後、状況を報告とか、話をしないというのは、また、直接そういう意見を聞く場をまた、この営農センターで話し合いまして、作っていきたいと思っております。

●議長(小林幸雄) 石川議員。

◆1番(石川広之) また、信濃町の農業の現状を見ると、下支えということで、農業の底辺がなかなか、広いようでいて狭い。少し10年位、20年位前から見ると農業者人口は減って、集中的な規模拡大農家というふうに聞いたところがいいですけれども。地域の受入れ口ですが、受けるところ、地域の人であれば、安心もしていただけるけれども、ないところはそういうわけにはいきません。ぜひ、この公社立ち上げには大変問題、問題というか、なかなか難しいものがあるということですから、ぜひ、自立できる、町である程度の国の段取り、県の段取りはするけれども、ぜひ、町で予算を使わなくても自立できるような農家をぜひ、育てていただきたいなと思います。それも年齢それぞれ相応でありますから、次期、公社をやるまでの10年間、あるいは15年という、このスパンを見た中で、ぜひ、計画を立てて、長期の話し合いをぜひ、していただきたいと思います。農業、こう見ても信濃町の広大な農地、決してどこかへ行くわけでもないし、農業委員会の枠から外れるわけでもない、これはもう現状、現実ですから、ぜひお願いします。

農業者人口、あるいは今の、先ほども皆さんそれぞれ言われていますけれども、日本創成会議が試算した結果ということで、2040年の人口、女性の人口がいないということになると、それに付随して町全体、あるいは若者の人口が減る、これ農業の基盤づくりとすれば、大変厳しいもので、今現状、農業をしている農家の長男かな、ほとんどは今。それにしても、経営的には農家では難しいということで、ほとんどの皆さんが勤めに出ている。その中でも、ぜひ、農業経験のある、そういう地域の若者、中

堅の方の育成をぜひお願いしたいと思います。また、これに関わって、長期5ヶ年計画、町の制定されたあの厚い本の中に、いろいろ皆さん、こうやって少子化問題、あるいは人口減の問題はいろいろあって、語られます。また、住みよい信濃町、あるいは暮らしやすい信濃町、教育・福祉が充実しているというふうには言われますけども、あの本の中には、一つとして「結婚」という言葉がないんですよ。一番大事な出だしがないんです。私もその時の会議のメンバーでありました。この本の中には「結婚」という言葉が一つも出てこないの、出だしがなく、どこに先が見えるんだと言ったことがあります。その時の町長、松木町長であります。その出だしのない、それが今問題になって、少子化につながっているのではないかと思います。もう少し、8年の計画を見る中で…おいてもその当時、やっぱり、子供を産みやすいじゃなくて、結婚してもらわなきゃ、子供はできないんです。ぜひその点を、町全体、今の教育にしてもそうですよ。小中一貫、また、農業の問題もそうです。その中で取り上げた中で、ぜひ、行政全体、信濃町町民、それぞれの皆さんの一つの課題だと思います。ぜひ、結婚ができる、あるいはまた、大変厳しいプライバシーの問題であったり、いろいろな問題であったり、なかなか本には出てこないというのは、つくづく痛感した時もありました。今回もどういう面で、やっとな50万という予算で、触れ合うっていうのか、言葉的にはそんな程度で、決してその先までうたった50万ではありません。ぜひ、町全体と考えると、人口増、あるいはそれぞれの面においても、ぜひ、「結婚」という言葉、行政としても、大変なものがあると思います。ぜひ、その面においても、お願いしたいと思います。町長、またその「結婚」という言葉、町長としての立場ではどのようにお考えですか。お聞かせしてください。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 結婚してカビが生えるような歳になっていますので、どう思うかと言われても「あの頃はわくわくしたな」という思いがするところがございます。確かに、他人事ではなく、我が家でも結婚しなくて弱っているところがございます。何とか結婚して欲しい。仰るとおりに、結婚しなきゃ、いくらうちの町の教育、いい教育していますよって、そこに行かないわけですよ。まさに、結婚してくれて、子供をなしてくれて、なんぼということになるんだろうなという思いは致します。さりとて、昨日、インターネットのニュースを見ていたら、ある県の県議会議員が、県の女性、独身の女性職員に結婚を促すようにということ、多分一般質問か何かで言ったんだと思うんですけども、県側としては、慎重に構えたいと。確かに、これある意味ではセクハラみたいなことになってしまうんで。町としても、ぜひ、町民の若い人たちには結婚してほしいと、願うところですけども。また、私どもが頑張っていく方向というのは、企業誘致であっても、女性が働きやすい企業を持つてくるということは、女性の流出防止にもつながると。その中で、若い男性が出会いの場を持つて結婚につながっていくというようなことになれば、誠にいいなという思いをしております。

サンクゼールさんも、そういった意味では若い女性がたくさんいらっしゃいますし、今私の頭の中で、こういう企業を持ってくればいいなと思っているところも、女性の人が、非常に多く働ける企業に目を付けてはいるんですけども。そういった意味では、女性が流出しないように、働きやすい、そして、それでいて自然の恵みに、恩恵にあずかれる信濃町だという土地柄にしていくこと、さすれば、農家の跡を継いでいらっしゃる方、あるいは都会に行こうと思っている若い青年たち、そういう人たちもある意味では、一時的に都会に行っても帰ってきて、付き合っていた子と「一緒になろうよ」ということにつながってくれることを願うところでございます。そういったわけですから、プラモデルのように、引っ付けなければいいというわけにはいきませんので、そういう方向を目指して、企業誘致も進めていくことが大事かと。それとあと、先ほども副町長と話したんですけども、いわゆる移住ターンの促進に向けて、これ大学、農業関係の農学部を持っている大学とか、あるいは東京の新宿でイベントをする際、また、確か銀座ですか、県が作ったブースの中には「信濃町で農業をやりながら、住んでみませんか」というような、そういったものをどんどん展開していくべきだろうと。そんなことも考えていたところでございます。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番（石川広之） ぜひ、結婚ということで、そこから始まります、人口の増加は。ぜひ、町の重要課題として、町全体の皆さんの中に、これからはひとつ、ぜひ、言葉として出れるような会議を設けていただければ幸いです。

続きまして、町では、一次産業から六次産業への取り組みとして、いろいろ考えています。また、六次産業を担うために、いろいろな面で町予算を委託し、六次産業の立ち上げ、また、企業を立ち上げるためのそれぞれの育成というふうに着目しておりますけれども、農業者、あるいは農業関係の起業家はいますか。また、町はどのような報告を受けているか、お聞きします。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 現在の企業、農業の関係でございまして、今4名の方が起業を希望しております、その中で、町も支援していきたいということでございます。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番（石川広之） 規模、それぞれまた、いろいろあると思いますけれども。町の中核的な立場になれるような企業を、農業者を育てていただきたいと思います。

よく町長の言われる事への質問です。「楽農楽土」、町長の農業に対しての信念、あ

るいはまた、一つだと思いますけども、これにつきまして、直接の産業観光課長、ぜひ、どのようにお考えかお聞きしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） この「楽農楽土」については、楽しく農業をやって、楽しい地域生活を送るという主旨です。それには、農業をやって、出来たものが販売できなければ、売れなければ、楽しいというか、生活はできないという中で、今年、産業観光課で企画しているものをお伝えしたいと思うんですけれども。

今回は、生産者側の支援のほか、消費者に対して、町の農産物の広報を企画したいと。ということで、東京都の信濃町駅という中で、ここにもおいでになる吉岡議員さんが当時、観光の時に骨を折っていただきまして、信濃町駅とのつながりを、太いパイプを作っていただきまして、今現在、観光キャンペーン等行っている中で、信濃町駅から声を掛けていただきまして、今年、信濃町駅が開設して、120周年だということで、そのイベントにおける中で、JRもヤクルト関係の神宮球場がありまして、ヤクルト・阪神戦において、球場での農作物の宣伝や、また、石川県の能登町、これは、姉妹都市の流山市さんとのつながりがあるので、姉妹都市の流山市さんでのいろいろお祭りの時に農産物の宣伝を行うと。信濃町とつながりのある県外の場所で町の農産物の味を知ってもらおう試みを予定しているということで、農業をやっている方に、意欲をもって生産できるよう、町の農産物のファン獲得のために、企画をしているところです。産業観光課としては、そういう農産物の販売の拡大等によって、このような長の方針というか、考えに沿うようなものをやりたいということをお願いしたいと。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番（石川広之） 課長の話をお聞きしたかったですけど。はい、わかりました。

それぞれ農業、信濃町農業、全国的に言っても大変厳しい中です。昔は、3K、汚い、きつい、危険。今では、トラクターにはキャビンがつき、それぞれ快適なところもありますけれども、すべて、その場に行って、現場に行って、すべてをやる仕事が農業です。決して、屋根のある下で、工場で出来るという問題でもありません。ぜひ、信濃町の農業を発展させるためにも、また、これ以下にならないように、ぜひ、先ほども言ったように、農業の、農業者の育成、中核農家の育成、すぐにでも町は腰をあげて、公社がほど遠いなら、ぜひ、ぜひ、地域の農業者の話をお聞きする場をぜひ作ってください。お願いします。

続きまして、「観光について」お聞きします。長野県は多くの国立公園があり、これにより観光立県として、市町村も力を入れています。当町も例外ではありません。県下には、全国的にも有名な催し、行事がたくさんあります。ここ何年かの中に、来年3月には、北陸新幹線が金沢まで延伸します。続く4月には、長野市では善光寺の御

開帳と、多くの人々が長野市に集まります。続いて次の年、平成28年にはNHKの大河ドラマ、上田が主会場になるのかな、「真田幸村」に決定いたしました。それと今既に始まっている諏訪地方の「御柱祭」が、春には大きな見どころを迎える。ここ数年の行事を見ても、当町は県下を舞台とする諸行事を見ることではなく、また、それに参加できるような模索をして、前に出るような町の行動をとっていただきたいと思います。

上信越国立公園の西部地区分離、また、名称の変更と、当町への影響が大変大きいです。対象市町村との協議を進め、当町への利を探ってください。また、町民が知らないうちに「なったのかい」というような話ではなく、また、それぞれ広報に示した中で「町は今こういう考えでいます。」ということで、最終的には町民の理解を得て、名称は国で動くかもしれませんが、ひとつ「そんな話だったのか」と言われないうちにぜひお願いします。

また、信州は山岳県、国では8月11日を祝日とし「山の日」としました。長野県は「信州山の日」を制定しました。当町は北信五岳の中心です。山岳を利用したイベントなどの取り組み、多くの資源が利用されないまま眠っているような気がします。

上信越国立公園の西部地区について、お伺いします。当町での西部地区の範囲は、どの程度ですか。お聞きします。

●議長（小林幸雄） 松木建設水道課長。

■建設水道課長（松木哲也） それでは、只今議員の方からのご質問について、自然公園法の管理といえますか、事務を建設水道課で行っていますので、範囲につきまして、お答えさせていただきます。

信濃町に位置する上信越高原国立公園の範囲でございます。町内におきましては、大きく三つのエリアに分かれるということになります。一つ目は飯綱山のふもとの地域になります。高山や北信、富ヶ原などといった集落、人家のある集落については含まれておりませんが、そちらの地域でございます。二つ目でございますが、こちらは黒姫山全体を含む地域でございます。一部、黒姫スキー場のゲレンデ敷等含まれますが、この地域も高沢、黒姫の山桑地区、長水といった住宅地というか、人家のある地区は含まれないものでございます。三つ目は野尻湖を中心とした地域でございます。湖全体は範囲としては含まれます。その上、野尻地区、また菅川地区の一部の住宅地域もその範囲に入っておりますし、国際村、野尻湖のグリーントウンといった周辺の別荘地を含んだエリアとなっております。只今の西部地区全体での面積ですが、3万9772ヘクタールでございます。そのうち、信濃町が4738ヘクタールということで、11から12パーセント程度の範囲のエリアとなっております。以上です。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番(石川広之) 只今お伺いした中では、黒姫山、飯綱山地域は山岳地帯、また、国有林の中であり、住民の利用地ではないということです。でも、野尻地区に関しては、住民の地域、あるいは住民地域、商業地域、保養地だったり、それぞれ民地が混じっています。これらの地域に対し、国立公園であるべきあり方について、国からの指導などがあるのですか。また、あったことはありますか。お伺いします。

●議長(小林幸雄) 松木建設水道課長。

■建設水道課長(松木哲也) 国立公園ということで、自然公園法のエリアというようなことになると、規制を受けるような形になります。そういった中で、工作物の新築、増改築、また、木竹とかの伐採、また、掘削等、そういうようなエリアに入っている方、また、いろいろたくさんあるんですけども。こちらの方につきましては、許可または届出を環境省の方に上げていくと。県を通じてということになりますけれども、県の環境部等へ、その申請をして、許可なり届出をしてから、そういうことが、行為ができるというような形になります。以上です。

●議長(小林幸雄) 石川議員。

◆1番(石川広之) 野尻地区、それぞれ野尻湖面のほかに、外周にあるそれぞれの居住地が対象ということです。それについてのいろいろな増改築に関しては許可が必要であったり、また、それに許可が下りないと、そういう行為はできないということです。県あるいは環境省が見守る世界であって、町では、なかなか見守れないという世界もあるのかなと思います。それにつけても、ぜひ、野尻湖あるいは信濃町の観光、国立公園エリアがしっかりと、町の財産として、観光面であるいは地域に役立つような活用の仕方を、国立公園の活用の仕方をぜひ、町全体としての考えの中で行っていただければ幸いです。町長の意見もお伺いいたします。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) まず、経過のことについて、ちょっと触れたいと思います。もう既にマスコミで取り上げられているので、多くの皆さんは知っておいでのもだと思います。むしろ皆さんの関心は「どのような名称になるのかな」という方に注意が向いているのではないかと考えております。議員もご存じのとおり、私たち信濃町、飯綱町、小谷村の三町村は、地域を総称する名称を希望してきましたし、それが一番よいことと思っております。また、この件については、糸魚川の市長も同調してくれております。長野市も一定の理解を示してくれてはおりますが、決定するのは環境省でございます。これからも環境省と粘り強く交渉してまいります。決定された時は、速やかに広報等で、町民の皆さんにお知らせしたいと思っております。悔しいことは、公報で

知らせる前に、先にマスコミの方で皆さんが知ってしまうということ。これが残念なところでございます。

あと、活用でございますけども、この「名は体を表す」と言うがごとく、やはり「妙高・戸隠国立公園」となってしまうと、この二つにだけスポットが当たって、私どもが野尻湖という素晴らしい資源、あるいは黒姫山という素晴らしい資源、こういうものを二つも持っているながら、この妙高・戸隠に埋没してしまう恐れがあります。これはやはり、いろいろな角度から、粘り強く交渉していかなければいけません、何とか、そういったことで、いわゆるナショナルパークというものは、インバウンドの人にとっては、非常に魅力のある所でございます。そういう観点から、ぜひ、ネーミングは地域総称にさせていただいて、ですから、例えばの話、私どもは「信越高原国立公園」ということで申し上げてきましたけれど、「信越高原・黒姫国立公園」と入れてもいいですし「信越高原・野尻湖国立公園」と入れてもいいし。これは環境省の方で許可をされているところでございます。これが「妙高・戸隠・黒姫国立公園」どうも、妙高の場合にはひょっとすれば「妙高・戸隠地域 妙高国立公園」と、頭に妙高があって、後に妙高があると非常にインパクトが強く感じる部分でございます。やはり、私どもは「信越高原」でいってほしいなど。先日も環境省の中央審議会の会長にお行き会いして来ましたが、いろいろ手立てを尽くして進めてまいりたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番（石川広之） 「国立公園」の件に関しては、また、住民あるいは町、それぞれ皆しいい方向に持っていきたいと思っておりますので、よろしく願います。また、当町にも、先ほど「県下にも諸行事たくさん」と言いましたけれども、当町にも全国的にも有名な「一茶さん」、一茶に関係した「一茶まつり」「一茶忌」また、「野尻湖トライアスロン」「灯籠流し」、冬で言うと「レルヒスキー大会」と、それぞれ多くの行事が町にはひとつの資源としてあります。また、町、町外の諸行事、これから大変、目白押しな長野県下であったり、また、それに「どうにかしよう」という信濃町だと思います。町が今、こういう諸行事に対して、どのような対応をされているのかお聞きします。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） これから来るいろいろな行事に対しましては、町独自のものもありますけれども、町長が申したとおり、地域全体で、やっぱり観光客というのは、そこの目的地からその周辺に流れていくと。そういう中で、今、新幹線の開通を伴う行事等を広域でやっておりますし、また、信越線の分離の関係でも、人を呼び込もうという中でもやっておりますし、あと、先ほど議員さんも言われたとおり、善光

寺の御開帳という中で、非常に宿泊地がないということで、そこへ人を運ぶ交通等を考えたりということで、それぞれ対策を今から、ちょっと遅い気もあるんですけども、十分整えて行事に臨みたいということで考えております。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番（石川広之） 町長、産業観光課、それぞれ農業問題と観光問題と、大変忙しく昼夜を分かたず働いている。またその中で、伊藤課長におかれましては、それぞれ観光と農業の一体化、あるいはそれに対しての横のつながりを大事にするという、町長の一つの考えではありますけども。どうですか。お互い自立して、もっと、農業と観光の面に対して力を入れる信濃町にもっていく。それで副町長、また、そのパイプ役を担えば十分どうにかなると思います。ぜひ、そんな考えがあるかどうかお伺いします。町長。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 元々、農業と観光のリンクということで、私は取り組んできたつもりですし、その意味では、道の駅の社長にも「野菜の直売所をあそこでやったらどうだろうか」ということも提言したのも私でございます。ちょうど、社長も考えていたらしくて、二人の考えが合致したということもあったわけでございますけど。農業の問題、公社の問題、「まだまだ時間は掛かります」と言いましたけれども、私も決してそんなに悠長に農業のことを考えているつもりはございません。今、先ほど、議員は10年15年と仰られましたけれど、遅くとも5・6年後には立ち上げられるように、もし来期というものがあれば、道筋はきっちり作ってやっていきたいと。できれば、もうちょっと早くにはしたいとは思っておりますが。ここで「いついつまでに」とは、これは申せません。また、観光の面についても、先ほど議員「大河ドラマの真田幸村」と仰ったけれど、なかなか信濃町と幸村の接点というものが見つかりません。私の知っている事で言いますと、1585年に真田昌幸が徳川北条軍に攻められるということで、幸村を上杉家に人質に出して、それで上杉から援軍をもらって、徳川軍を破ったということくらいなもので。私の空っぽの頭で推測するならば、幸村が人質に行く時、帰る時にこの信濃町を通過して、野尻湖を見て、寄って行ったかな、野尻湖で釣りでもしたのかなと。という、そのくらいの推測くらいしかできないので、議員にもいい古文書か何かお持ちでしたら、ぜひ、お知らせいただきたいなと思っております。

更にまた、善光寺についても今、伊藤課長も申しましたが、確か7年に1回の事業でございます。このせっかくのチャンスに乗り遅れてはならじということで、私も先般、長野で会議があった時、加藤市長と隣合わせだったものですから、私の考えをちょっと「どうだろう」と。というのは、長野市では当然道路が駐車であふれてしまっ

て、駐車場が一杯になってしまって、道路へ違法駐車とか出るんじゃないかと。向こうは心配しているわけです。そうすると、救急活動(救急車)に支障をきたしても困るという心配もされておるようだから、「そういう人たちをどうか信濃町に紹介してくれ」と。「その代わり、信濃町の方でバスを仕立てて、善光寺の御開帳から、場合によっては戸隠を回って、それで信濃町へ帰って来て、信濃町へ泊ってもらおうと、こういう案はどうだろうか」と申し上げたところ、市長は大変興味を示して、すぐ職員に「おい、ちょっと検討しろさ」というようなこともございますし。いずれにしましても、このチャンス、指をくわえて見過ごすことはないと思っていますので、観光と農業、いずれにも力を入れてやっていくつもりでございます。

●議長(小林幸雄) 石川議員。

◆1番(石川広之) 今日、北村議員、荒井議員からもそれぞれ公社の件に関していろいろ町長にお伺いしました。その中では、「当面」あるいは、ごにやらっと、あまりいい返事はなかった。私としては「これは10年15年掛かるんだな」と。今聞いたら「すぐにでも」と。そう言うのなら、さっき「すぐにでも」と言ってもらえば、15年10年という話を私はしなかったです。何か、そういう急に変わった腹なんだか、既に腹があったんだけど、ちょろっと出た話なんだか、でも、農業問題、そんなに簡単に動くわけではありません。腹を据えて、ぜひ、信濃町の農業、他に類のないようなしっかりしたものを作って、皆してやっていこうと思います。また、町長はじめ、行政の皆さん、ぜひ、お手伝いをします。また、それに関して、いろいろな話ができればと思いますのでよろしくお願いします。また、観光の面に関して、それぞれ乗り遅れたんでは間に合いません。今です、すべてが。今既に乗り遅れているかもしれません。でもそこにすがってでもいいから、信濃町という名前を付けるんだというようなつもりで、観光課長、農林課長2つ課長職を抱いているようなつもりで、ぜひ、頑張ってくださいと思います。以上で質問を終わります。

●議長(小林幸雄) 関連質問のある方。9番森山議員。

◆9番(森山木の実) 議席番号9番、森山木の実です。関連質問いたします。

先ほどちょっと、町の人口増と、それと結婚ということ、結婚して子供を産んでという話が出ましたので、それについてちょっと一言申し上げたい、質問したいことがあります。

町の人口増のためには、もちろん子供が増えることが必要です。で、結婚したい人のために出会いの場を作っていくことは、もちろん大事なことだと思います。そして、子供を持ちながら働ける場所、それから、安心して子供を預かってもらえる場所、これも必要だと分かっております。で、これらが子供が増えることが必要であることは分かっています、分かった上であえて言わせていただきますが、若い女性が信濃町に来

たら、周りがそういう目で「あっ、子供を産む人が来た」と見られるということだけは避けたいと、私は思っています。で、女は子供を産む機械ではないと、そこまでは強く言いませんけれども。信濃町で、じゃあ、若い女性が来て、結婚できた、誰かがね。そうすると「さあ、子供はいつだ。」これ、私が古い人間なもので、私の頃、結婚すると「さあ、子供いつできるんだ、まだか、まだか」とまず聞かれる、このプレッシャー。それから次、1人産まれたら「次はいつできるんだ」と、このプレッシャー、大変つらいことだと思います。で、私のこの町での知り合いでは、もうそのプレッシャーで、不妊治療に通い続け、とうとう駄目だったと、大変悲しい思いをした人もいました。で、昔から女は結婚して子供を産んで育てると、それが仕事だと言われてきました。また、働きながら子供を育てられるか、それが出来るかどうか、そういうことが問題になるのは、いつも女の側ですね。結婚した男の人に「働きながら、結婚生活できるか」と、誰も聞かないんですよ。女には聞くんですよ。「結婚と仕事と両立は」と、女には聞かれる。そういうことが問題になるのはいつも女の側です。で、町の人口増のためには、もちろん結婚する人が増えて、子供を産む人が増えることが必要ではありますが。あえて、分かった上で質問いたしますが、男女共同参画の観点から、今私が言った、この子供ができない人にはプレッシャーであること、それから、結婚した途端に「子供はまだか、まだか」と言われるような大変な、うっとおしいですね、そういう町でいいのかどうか。男女共同参画という観点からどう考えるか伺います。

●議長（小林幸雄） 小林教育次長。

■教育次長（小林義之） 非常に難しい問題でございますけれども。女性の立場というものは大事にしていかなければいけないと思っておりますし。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 確かに、気の早い人は、結婚したら「子供はいつできるんだ」と、「まだできないのか、まだできないのか」と。これ、だけど、親が娘に言うのなら、これはいいと思うんですね。それは親子関係ですから、「俺だって長くないんだから、早く孫の顔が見たいんだ」という気持ち、それは親子の関係ですから。ただ、他人が、それこそ兄弟であっても、あまりそういったことを言うべきものではないんだろうというふうには思います。ましてや、町行政にあって、そういったことに話題が及ぶ、あるいは陰で「あの家はまだ、なかなかできないなあ」何て言うことは、余計なお節介も甚だしいところでございます。町民の皆さんにも、その辺のところはご理解いただく中、若い夫婦が、カップルが誕生することを心より願っているところでございます。

なお、女性が子供を持って「結婚して仕事ができるか」ということを言われると大

変なんだと言われます。これ女性だからまだいいんですね。男性が妻と別れたとか、妻を亡くしてしまって、子育てしながら仕事をするという、残業もまんざらやらないと白い目で見られるし、そうかといって、子供の炊事、洗濯もみんなしなければいけないし、私の友人で、非常に苦労した君がおりました。「良く、くぐり抜けたな」という感心をしたところでございますけれども。男女共に力を合わせて、夫婦共に力を合わせて仕事をしていくということに尽きるんだろうと思っております。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） やっぱり、意識からちょっと変えていった上で、若い夫婦が来て、この町で幸せに子育てができればいいと思います。最後にちょっと、男女共同参画係の担当の課長に聞きたいのですが、どうですか。あ、共同参画係は教育委員会ですね、失礼しました。もういいです、さっきのが答えで。まだありますか。

●議長（小林幸雄） 小林教育次長。

■教育次長（小林義之） 男女共同参画につきましては、子育て支援ということで、今度、教育委員会の方で担当するようになりました。やはり、こちらに、信濃町にいらっしゃるご夫婦が子育てできるような形での支援をしていきたいと思っておりますし、意識改革についても周知をしていきたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） 終わります。

●議長（小林幸雄） 以上で石川広之議員の一般質問を終わります。

お謀りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会にいたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

（なしの声あり）

ご異議なしと認めます。よって、本日はこれで延会とすることに決定いたしました。

念のため申し上げます。明日6月14日、15日は休会とし、16日、月曜日でございますが、本会議は午前9時45分より開会いたします。時間までにご出席ください。ご苦労様でございました。

（午後3時20分延会）